



さかぐち けいとくん
(3さい)

トラックや タイヤショベルの うんてんしゅに なりたいな。おじいちゃんも おとうさんも うんてんて きるよ。ほくも トラックに ウマを のせるんだ。



奥春別森の保育園のおともだち



なぐも そらくん
(6さい)

アクロバットひここのパイロットに なりたいんだ。さいたままで みたことがあるんだけど ひここのきぐもが ハートのかたちで かつこよかつたよ。

がんばっているあなたがすぎ

シリーズ・ひと

交流の輪を広げていきたい

第3回鉚路川リバーフェス、11実行委員長

土田 祐也さん(36歳・屈斜路)



今年で3回目を迎えたリバーフェス。(34ページ参照)素晴らしい天気にも恵まれ、今年も多くの町の皆さんが、カヌーでの鉚路川下りを楽しみました。カヌーガイドである土田さんが、このイベントを企画したきっかけは何だったのでしょうか。―地元の人から、地元の川を、地元の川に感じてもらう。その思いからでした。僕たちガイドのほとんどが、この地が好きで移り住んできた町外、道外の人間です。町の人にとって地元の良いところは、当たり前になってしまっているというか、あらためて感じるものがなくなっているかもしれない。自分たちがいいと思っている川を地元の人にもあらためて知ってほしいと思えました。また、ガイドがどんなことをしているかということも、皆さんに理解してもらいたいという思いもありました。そうした思いからガイド仲間と声をかけたところ、多くの賛同をいただきました。ハイシーズン中の開催は、大変なこと多いのでは。―そこがガイドたちの心意気というか。もちろん、年中通して鉚路川は素晴らしいのですが、小さなお子さんからお年寄りまで、いろいろな年代の方に楽しんでもらえるように、気候

が安定したい季節に開催しています。実行委員会の趣旨に賛同し、仕事を休んで早く手伝わなくてもいいかと思っているの、いろいろな方に参加していただけるよう、イベントの周知には気を配っています。今回は、東日本大震災のチャリティイベントとしての開催でした。―今年のリバーフェスについて計画を詰めていたときに、震災が起こりました。何かしたいという思いはみんな一緒だったので、チャリティという位置づけにしました。復興へは長い支援が必要です。微力ではあっても、身の丈に合った支援を続けていきたいと思っています。開催してみたいの感想と、今後の抱負をお聞かせください。―ずっとここに住んでいたけれど、川下りは初めてという方がたくさんいます。最初はこわごわでも、川の上に出たら表情が一変！楽しんでもらえてうれしです。また、ガイドと地域の方、さらにガイド同士の交流の機会ともなっていて、大切な時間だと思っています。今後とも地道に長く続けて、こうした輪を広げていきたい。長く続けたいからこそ、未来の楽しみへとつなげていきたいですね。

漢詩や和歌などに独特の節をつけて吟ずる詩吟。詩吟に親しんでいるサークルは町内にたくさんありますが、今回は弟子屈吟詠会の皆さんをご紹介します。



弟子屈吟詠会の皆さん
前列右端が会長の千代さん

We are enjoying !!
サークル
おじゃまします!

(社)日本詩吟学院岳風会北鉚路支部
弟子屈吟詠会
会長・千代 陽子さん
担当師範・加藤 ノブ子さん
会員・10人



お稽古の様子

設立は1967(昭和42)年ころ。公民館でのサークル活動がきっかけです。毎週木曜日の19時から公民館で、担当師範の加藤さんの指導を受けながら詩吟を学び、楽しんでいきます。会員の皆さんが詩吟を始めたきっかけは、会員に誘われた、結婚式で詩吟を聞いていいと思ったなど。段位昇段のための試験や吟道大会への参加など大変なこと多いのですが、苦しみ乗り越えたときの喜びが大きいです。詩吟のことがそんなに魅力的で、皆さんの心をとらえているのでしようか。多くの皆さんが話していたのが、日本の伝統文化に親しみ楽しむと、腹式呼吸を覚えることでとても健康にいいということでした。

今年、日本詩吟学院岳風会北鉚路支部ができて30周年という記念の日です。同支部所属の町内のほかの詩吟サークルの皆さんも含めて、30周年記念大会に向けてお稽古に熱が入っているそうです。また、新規会員も随時募集中のことです。興味のある方は加藤さん ☎482-2515 まで。